

AI×5G 時代のビジネスモデル研究報告会
(カンファレンス 2021 リサーチプロジェクト・セッション)

テーマ：AI×5G 時代のビジネスモデルをデザインする思考法

報告者：

小片 隆久 氏 (日本電通株式会社 技術開発部)
富樫 佳織 氏 (京都精華大学 メディア表現学部 准教授)

モデレーター：

伊藤 智久 氏 (明星大学 経営学部 准教授 / 中央大学ビジネススクール 兼任講師)

日 程：2021 年 10 月 17 日 (日) 9:00-10:30

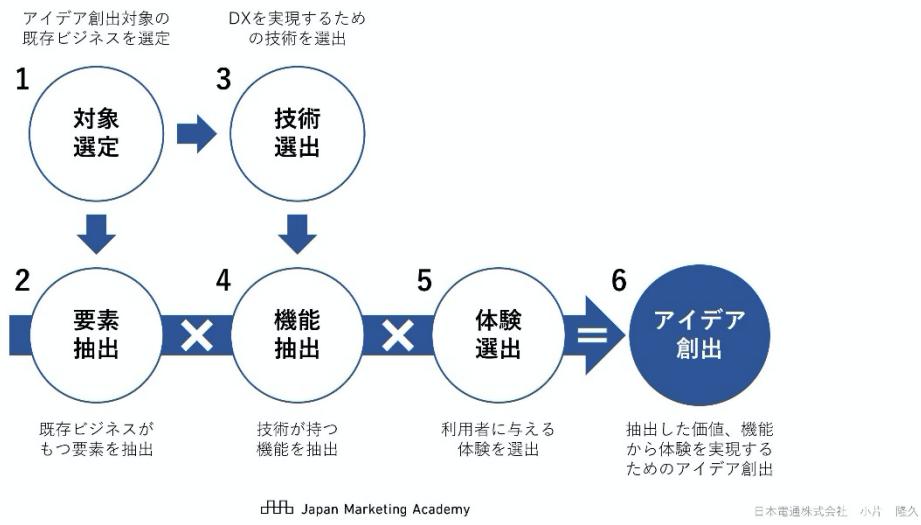
場 所：Zoom 使用によるオンライン開催

【報告会レポート】

日本マーケティング学会のリサーチプロジェクト・セッションにてオンライン開催され、全国の実務家や研究者など 30 名程度の方々にご参加いただきました。報告会では、まず伊藤氏から本リサーチプロジェクトの概要と、今回の報告会のテーマである「AI×5G 時代のビジネスモデルをデザインする思考法」について説明されました。

続いて、小片氏から「B2B2X ビジネスマネジメントを実現するためのフレームワーク構想 AI×5G 時代のデジタルビジネスの戦略・組織研究」と題して、報告が行われました。報告では、NTT をはじめとする通信キャリアが、様々な企業と連携してビジネスモデルの実証実験や展開に取り組む B2B2X ビジネスマネジメントの事例について紹介されました。その上で、B2B2X ビジネスマネジメントを創出するためのフレームワーク構想について提案されました。

フレームワーク実施手順



▲小片氏の講演資料の抜粋

次に富樫氏から「プラットフォームエコシステムにおけるビジネスモデルデザインの検討」と題して、報告が行われました。報告では、プラットフォーム論、エコシステム論、エコシステム・ベースのビジネスモデルに関する先行研究を概説した上で、エコシステム型のビジネスモデルにおいて中核企業が設定するルールや、エコシステムに参加するアクターの相互依存による価値創造の方法について検討されました。事例として、株式会社NTTデータのモビリティコマース事業と任天堂株式会社のゲームソフト「どうぶつの森」シリーズを取り上げ、プラットフォーム型とエコシステム型のビジネスモデルを比較した上で、中核企業によるアクターのマネジメントについて説明されました。

2、先行研究

●エコシステム論

●Jacobides et al.,(2018)による
階層ベースのマネジメントと、ESベースの価値システムに注目をする

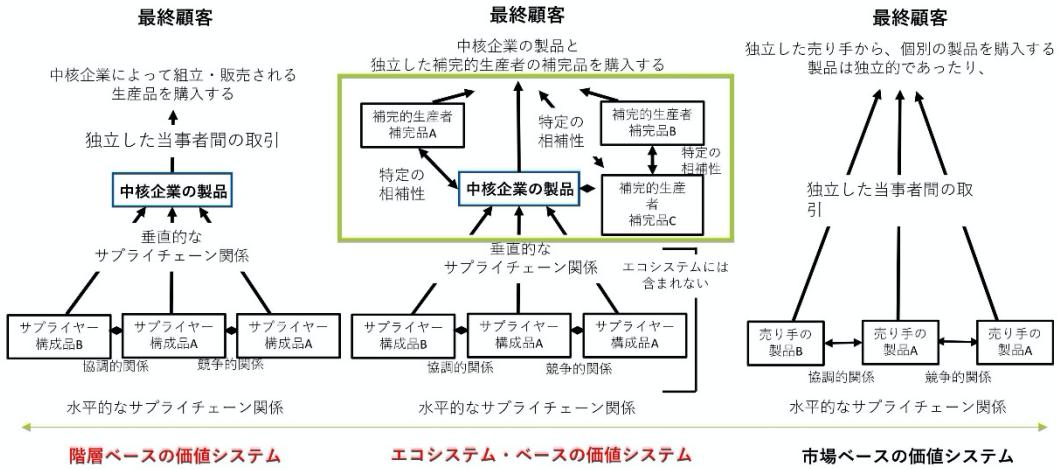


図 1 Jacobides et al.,(2018)による価値システムの違い

【出所】Jacobides et al.,(2018)FIGURE 1を参照し筆者が翻訳して作図

Japan Marketing Academy

京都精華大学 富樫佳織 10

▲富樫氏の講演資料の抜粋

小片氏と富樫氏の講演後、モデレーターとして伊藤氏も参加し、ディスカッションが行われました。伊藤氏からは、小片氏と富樫氏の発表の共通点は「多様なアクターとの共創による価値創出であり、現代のビジネスモデルのデザインという点で大変特徴的な活動である」というコメントがありました。

その上で伊藤氏からは、「1社のみによる価値創出と、多様なアクターとの価値共創では、どのような違いがあるか?」「価値共創に取り組むアクターの選択や巻き込みにおいて重要な点は何か?」「多様なアクターが存在した場合、利害関係により対立が発生する可能性があるため、どのように対処することが望ましいか?」といった質問が投げかけられ、小片氏および富樫氏とのディスカッションが行われました。

ディスカッション後には、参加者との活発な質疑応答が行われ、盛況のうちに報告会は幕を閉じました。

(文責：伊藤智久)